

第5・6学年社会科学学習指導案

【第5学年】

1 小単元 暮らしを支える食料生産

(東京書籍5年上)

2 小単元について

(1) 位置とねらい

この期の児童は、これまでの学習で、日本の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活したり、自然条件を生かした農作物の生産、観光などの産業を営んだりしていることを捉えてきている。

本小単元では、食料生産のさかんな地域の広がりや自然条件との関連を整理することを通して、日本の食料生産の概要について理解し、食料生産は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを捉えさせるものである。また、写真や地図などの資料を基に適切に調べ、まとめる技能や、日本の食料生産について考えたことを表現する力などを高めることができる。

この学習は、日本の食料生産を支える農業や水産業の役割や、それらに関わる人々の工夫や努力を追究する学習へ発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

日本は、海に囲まれた島国で、国土の3/4を山地が占め、四季のある国である。また、南北約3000キロメートルに渡り、地形や気候も様々である。日本の食料生産は、これらのような自然条件を生かして営まれ、国民の食料を確保する重要な役割を果たしている。児童にとって身近にある生産物を取り上げることで、日本の食料生産について関心をもたせ、自分たちの食生活が支えられていることについて考えるのに適した教材である。

そこで、本小単元では、日本の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることを捉えさせるために、生産物の種類や分布、生産量の変化などに着目させ、それぞれの生産物のさかんな地域を白地図に記入させていく。そして、食料生産は、自分たちの食生活を支える重要な役割を果たしていることを考えさせることが大切である。

具体的には、まず、お店のちらしから分かる生産物の産地を地形や位置関係を捉えることができるように白地図に記入するように促し、「わたしたちが食べている食べ物は、どのようなところで作られているのだろうか。」という学習問題を設定する。小単元の学習の見通しをもつことができるように、学習問題に対する予想をもとにして、学習計画(追究の柱)を立てるように働きかける。次に、①米はどのようなところで作られているのだろうか、②野菜・果物・畜産はどのよ

【第6学年】

1 小単元 縄文のむらから古墳のくにへ

(東京書籍6年歴史編)

2 小単元について

(1) 位置とねらい

この期の児童は、これまでの学習で、国民の願いを実現するための日本の政治の仕組みや、国民の生活の安定と向上を図る現代の政治の働きについて学習してきている。

本小単元では、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の3つの事象を手がかりに、世の様子がむらからくにへと変化していることを捉えさせるものである。また、この時代の遺跡や人々の生活などに対する関心を高め、写真や絵図等の資料を活用し、事象の相互関連や時代の様子の変化について考える力や、分かりやすく説明する力を養うことができる。

この学習は、天皇を中心とした政治が確立された奈良時代・飛鳥時代について追究する学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

縄文時代までは、人々は協力して生活をしていて、米づくりが始まったことによって、人々の間で貧富の差や上下関係が生まれた。むら同士でも差が生まれ、力の強いむらが周囲のむらに従え、各地でくになができた。くにを支配する王や豪族が現れ、やがて大和朝廷が、九州地方から東北地方南部までの豪族や王たちを従えてくにを統一した。また、大陸との交易が、くにの統一をより一層加速させた。

そこで、本小単元では、米づくりが始まったことによって、世の中の様子がむらからくにへと変化したことを捉えさせるために、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子に着目させ、人々のくらしの変化が世の中や国の体制の変化に影響を与えたことを捉えさせることが大切である。

具体的には、まず、縄文時代と弥生時代の想像図を見比べることができるようにワークシートなどを準備し、「米づくりが始まったことで、人々のくらしや世の中は、どのように変わっていったのだろうか。」という学習問題を設定する。小単元の学習の見通しをもつことができるように、学習問題に対する予想をもとにして、学習計画(追究の柱)を立てるように働きかける。次に、①人々の服装や食事、住居はどんな様子だろうか、②どんなことから強い力をもった人の登場が分かるのだろうか、③むらはその後どのように変化していたのだろうかということについて、教科書や資料集を用い

うなところで生産されているのだろうかということについて、教科書や資料集を用いて、調べさせる。その際、食料生産の産地の広がりや地形や気候を関連付けて考えられるように資料をもとに働きかける。そして、日本の食料生産の全体の様子を踏まえ、日本の食料生産は、自然条件と関わっていることを捉えさせ、自分の生活と関連付けて、日本の食料生産について考えるように働きかける。

これらの学習を通して、社会的事象の特色や相互関連などからの課題を把握し、その解決に向けて自分の考えを説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けることができる考える。

(3) 児童の実態と分析(調査人数4名, 主な項目のみ)

児童の実態は、次のとおりである。

① 社会科の学習について
・ 好き(3) ・ どちらでもない(1)
② 食料生産について知っていること
・ 青森県ではりんごがとれる。熊本県ではバンパイヤがとれる。
・ 鹿児島は、さつまいもやお茶、黒豚が有名。
・ 釧路は、キビナゴがたくさん捕れる。
・ 日本は魚が捕れる。ラフランスは、日本しか育てていない。
③ 資料活用の技能
・ 地図…都道府県的位置 漢字記述を含め、4名とも正答率1～2割程度。
・ グラフ…折れ線グラフ最高点(4) 棒グラフ変化(4)
④ 社会的な思考・判断・表現
・ 変化の理由や原因(こよみ) 【婦恋村のキャベツこよみについて】 → 長い間収穫できる(1) いつでも出荷できる(1) 実がなる時期に気がつけている(1) その他(1)
⑤ 食料生産について調べてみたいこと
・ 北海道で有名な食べ物。
・ 野菜がどのように作られているのか。
・ 釧路でたくさんとれる物。
・ 日本で獲れる魚の量。
⑥ ガイド学習で大切なこと
・ 友達が分からないことを教える。
・ 姿勢良く大きな声で進める。
・ 周りを気にすること。
・ 先生が伝えたことをみんなに伝える。

5年生は、社会科の学習に比較的高い意欲を示し、様々な都道府県や世界について知ることに関心をもっているようである。

③・④においては、都道府県的位置と漢字記述が定着しておらず、変化の理由や原因を捉えることができない児童が多い。

また、日頃の学習の様子から、自分の考えを意欲的に表現する児童が多いが、調べたことを適切にまとめたり、話し合いで考えをまとめたりすることに課題が見られる。そのうえ、資料の取舍選択や正確な情報を読み取るといったことも課題が見られる児童が多い。状況に応じて、個別指導が必要である。4名全員が留学生であるため、複式学級の学習の進め方に慣れておらず、まだまだ発展途上の段階である。見通しをもたせるために、ガイド学習時に「学習の進め方」を用いたい。

て調べるように促す。その際、米づくりが始まったことによって起こった、人々のくらしの変化や世の中や国の体制の変化を関連付けて考えるように資料をもとに働きかける。そして、米づくりが始まったことで、強いむらが周辺のむらを従え、くにへと発展し、やがて各地に大きな力をもつ豪族が現れ、大和朝廷により国土が統一されたことを捉えることができるように働きかける。

これらの学習を通して、社会的事象の特色や相互関連などからの課題を把握し、その解決に向けて自分の考えを説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けることができる考える。

(3) 児童の実態と分析(調査人数6名, 主な項目のみ)

児童の実態は、次のとおりである。

① 社会科の学習について
・ 好き(2) ・ あまり好きではない(2)
・ どちらでもない(2)
② 縄文時代・弥生時代・古墳時代について知っていること
・ 縄文土器があった。
・ 縄文土器があったから、縄文時代という名前がついた。
・ 縄文時代には石器があった。
・ 縄文時代は狩りをしていて、弥生時代に農業が始まった。
・ 古墳時代は、古墳を作った。
・ 弥生時代にひみが土地をうるおした。土地をめぐる争いが起きた。国ができた。土器が作られた。
・ 土器や古墳があった。黒曜石で動物の狩りをしていた。
③ 資料活用の技能
・ 写真…事実の読み取り → 十分な読み取り(3) 5割程度の読み取り(2) 2～3割程度の読み取り(1)
④ 社会的な思考・判断・表現
・ 比較(写真) ※複数回答可の問題 【明石駅前の昔と今で様子が違う理由】 → 経済的な発展の観点から(2) 利用者増加の観点から(3) 地域活性化の観点から(3) その他(1)
⑤ 縄文時代・弥生時代・古墳時代について調べてみたいこと
・ 人々の生活について調べてみたい。
・ 食べ物や遊びについて知りたい。
・ どのように狩りをしていたのか。
・ 縄文土器はいつ発見されたのか。
・ 何を食べていたのか。 ・ 特になし。
⑥ ガイド学習で大切なこと
・ 友達と協力する。 ・ みんなに指示を出す。
・ 自分たちで授業を進める。 ・ きちんと周りを見る。
・ 友達の考えを聞いて、自分の考えを深める。
・ 他の人の意見などを聞いて、自分の考えを変えたり、深めたりする。

6年生は、社会科の学習に対して、意欲面ではばつぎが見られる。社会科が苦手な理由として、「覚えることがたくさんある」と複数人が挙げていた。

③・④においては、写真から分かる事実の読み取りや比較について、十分に捉えることができる児童は半数程度である。

また、日頃の学習の様子から、どの教科においても好奇心旺盛な児童が多いが、調べたことを適切にまとめたり、話し合いで考えをまとめたりすることに課題が見られる。そのうえ、資料の取舍選択や正確な情報を読み取るといったことも課題が見られる児童が多い。状況に応じて、個別指導が必要である。6名中4名が留学生であるため、複式学級の学習の進め方に慣れておらず、まだまだ発展途上の段階である。見通しをもたせるために、ガイド学習時に「学習の進め方」を用いたい。

(4) 指導上の留意点

ア 「つかむ・見通す」の過程では、お店のちらしの食材の産地を白地図にまとめるように準備しておく。それをもとに分かったことや疑問に思ったことを話し合わせる活動を通して、「わたしたちが食べている食べ物は、どのように作られているのだろうか。」という学習問題を設定する。そして、予想をもとに、学習計画（追究の柱）を話し合い、①米はどのように作られているのだろうか、②野菜・果物・畜産はどのように生産されているのだろうかということについて単元で追究する視点として設定する。

イ 「調べる・深める」過程では、学習計画に沿って、①米はどのように作られているのだろうか、②野菜・果物・畜産はどのように生産されているのだろうかということについて、教科書や資料集を用いて調べるように促す。その際、生産物の産地の特色を捉えさせるために、白地図上にそれぞれの生産物の産地の広がり位置を位置付け、地図帳を用いて気候や地形に着目するように働きかける。また、都道府県の位置や漢字記述が定着していない児童が多いので、地図帳を積極的に用いて、毎時間、白地図にまとめる活動を設ける。まず、米づくりのさかんな地域の地形や気候の様子について考えるように働きかける。次に、日本の農産物の生産額について調べさせてから、野菜、果物、畜産のさかんな地域の地形や気候の様子について着目するように働きかける。

ウ 「振り返る・生かす」の過程では、それまでの学習を踏まえ、それぞれの生産物がどのようなところでさかんに栽培されていたのかを整理するように促す。生産物の生産額やその変化も簡単に扱い、日本の食料生産の全体の様子を捉えさせ、学習問題に対するまとめを行う。また、自分の生活と関連付けて、日本の食料生産について考えたことをまとめるように働きかける。

エ 間接指導時には、ガイド学習を行う。学習の見通しをもち、間接指導時の活動内容を理解できるようにするために、直接指導時の指示を簡潔に行ったり、学習進行表を用いたりする。また、授業の終末では、それぞれの学びの過程を振り返らせ、学習内容を身に付けるための学び方を価値付ける。

(4) 指導上の留意点

ア 「つかむ・見通す」の過程では、縄文時代のむらの様子や、米づくりが始まったころ（弥生時代初め）のむらの様子について調べるように働きかける。その後、縄文時代と弥生時代の想像図を比較し、相違点について分かったことや疑問に思ったことを話し合わせる活動を通して、「米づくりが始まったことで、人々のくらしや世の中は、どのように変わっていったのだろうか。」という学習問題を設定する。そして、予想をもとに、学習計画（追究の柱）を話し合い、①人々の服装や食事、住居はどんな様子だろうか②どんなことから強い力をもった人の登場が分かるのだろうか、③むらはその後どのように変化していったのだろうかということについて単元で追究する視点として設定する。

イ 「調べる・深める」過程では、学習計画に沿って、①人々の服装や食事、住居はどんな様子だろうか②どんなことから強い力をもった人の登場が分かるのだろうか、③むらはその後どのように変化していったのだろうかということについて、教科書や資料集を用いて調べるように働きかける。また、社会科の学習に対して苦手意識をもつ児童もいるため、児童の問いを大切にし、その問いを解決するためのきっかけや補助を行うことで、児童が楽しく学習に取り組めるようにしたい。まず、米づくりの広がりによるむらの様子（服装や食事、住居）の変化について調べるように働きかける。次に、古墳の写真や古墳を築いている様子の想像図、出土品などから、古墳づくりの目的、王や豪族たちの力の大きさについて考えるように働きかける。そして、大和朝廷の力が各地に広がり、国土がどのように統一されていったのか調べるように働きかける。

ウ 「振り返る・生かす」の過程では、それまでの学習を踏まえ、米づくりが始まったことによって起こった変化についてまとめるように働きかける。それらを整理し、縄文時代と弥生時代を比較したり、弥生時代と古墳時代を関連付けたりして、学習問題に対するまとめを行う。

4 小単元の目標

- (1) 日本食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解することができる。
【知識及び技能】
・ 日本食料生産について、地図やグラフなどの資料を活用して調べることができる。
【知識及び技能】
- (2) 生産物の種類や分布、自然条件との関わりなどに着目し、日本食料生産の概要について考え、表現することができる。
【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 日本食料生産について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。
【学びに向かう力、人間性等】

5 指導計画（全4時間）

過程	主な学習活動
つかむ・見通す①	1 食べ物の産地について、疑問点をもとに、学習問題を設定し、小単元の学習計画（追究の柱）を立てる。 【本時】 わたしたちが食べている食べ物は、どのようなところで作られているのだろうか。 どのようなところに食べ物の産地があるのだろうか。 など 【追究の柱】 ① 米はどのようなところで作られているのだろうか。 ② 野菜・果物・畜産は、どのようなところで生産されているのだろうか。
調べる・深める②	2～3 学習計画（追究の柱）に沿って、写真やグラフなどの資料をもとに調べる。
振り返る・生かす①	4 小単元の学習問題について、これまでの学習を振り返りまとめる。 わたしたちが食べている食べ物は、食べ物によって様々な産地があり、食べ物は自然条件を生かして生産されている。 また、わたしたちの食料を確保する重要な役わりを果たしている。

4 小単元の目標

- (1) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解することができる。
【知識及び技能】
・ 世の中の様子の変化について、遺跡や絵図などの資料を活用して調べることができる。
【知識及び技能】
- (2) 世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目し、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子に関連付け、世の中の様子の変化について考え、表現することができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。
【学びに向かう力、人間性等】

5 指導計画（全8時間）

過程	主な学習活動
つかむ・見通す④	1 縄文時代のむらのくらしの様子について調べる。 2 米づくりが始まったころ（弥生時代初め）のむらの様子について調べる。
	3 縄文時代と弥生時代の想像図を見比べて、疑問点をもとに、学習問題を設定する。 【本時】 米づくりが始まったことで、人々のくらしや世の中は、どのように変わっていったのだろうか。 米づくりが始まったことで、どうして人々のくらしや世の中の様子が変わったのだろうか。 など
調べる・深める③	4 学習問題に対する予想をもとにして、学習計画（追究の柱）を立てる。 【追究の柱】 ① 人々の服装や食事、住居はどんな様子だろうか。 ② どんなことから強い力をもった人の登場が分かるのだろうか。 ③ むらはその後どのように変化していったのだろうか。
	5～7 学習計画（追究の柱）に沿って、写真や絵図などの資料をもとに調べる。
振り返る・生かす①	8 小単元の学習問題について、これまでの学習を振り返りまとめる。 米づくりが始まったことで、生活や社会の様子が変化し、強いむらが周辺のむらに従え、くにへと発展した。やがて、各地に大きな力をもつ豪族が出現し、大和朝廷により国土が統一された。

6 本 時

(1) 目 標

日本の食料生産に関心をもち、産地を白地図にまとめ、疑問に思ったことを話し合う活動を通して、学習問題を設定し、その解決に向けて学習計画をつくることができる。

(2) 指導に当たって

「振り返る・つかむ・見通す」では、前時の学習を振り返らせるために、前時に使用した給食の材料とその産地をクイズ形式で提示し、「産地」という言葉の意味をおさえる。お店のちらしも提示し、本時の学習課題を設定する。また、学習課題に対する予想を考えるように促す。黒板に貼っている白地図に着目させ、児童同士で協力しながら、白地図に食材と産地をまとめることができるように準備する。

「調べる」では、白地図にまとめたことから、気づいたことや分かったこと、疑問に思ったことを一人でワークシートにまとめ、発表の準備をするようにガイドが指示する。また、状況に応じて、個別指導を行うようにする。

「深める」では、ガイドを中心に一人で考えたことを全体で共有するように、学習の進め方に記載しておく。その後、疑問に思ったことをもとにして、みんなで追究したいことを話し合うように働きかけ、学習問題を設定する。また、単元で調べる内容を明確にするために、学習問題に対する予想をもとに、学習計画（追究の柱）について話し合うように働きかける。

6 本 時

(1) 目 標

縄文時代と弥生時代の想像図を見比べ、それぞれの生活の様子について分かったことや疑問に思ったことを話し合う活動を通して、学習問題を設定することができる。

(2) 指導に当たって

「調べる」では、まず「学習の進め方」やワークシートを用いて、本時の学習の見通しをもつことができるように準備しておく。さらに、前時の学習を想起し、本時の学習の見通しをもつことができるように、前時の学習をまとめたものをテレビに映す。そして、前時まで学習したことや想像図をもとにして、二つの時代のくらしの違いについて、一人でワークシートにまとめるようにガイドが指示する。

「深める」では、まず、ガイドを中心にワークシートに書いたことを全体で共有するように、「学習の進め方」に記載しておく。次に、それぞれが見つけた違いをもとにして、疑問に思ったことをグループごとに話し合うように、「学習の進め方」に記載しておく。ガイドが、グループでまとめたものを全体で共有するように指示をし、疑問点を全体で共有した後、縄文時代と弥生時代の大きな違いは、米づくりであることを全体でおさえる。各グループで出された疑問に思ったことをもとにして、みんなで追究したいことを話し合うように働きかけ、学習問題を設定する。そして、学習問題に対する予想をワークシートに書くようにガイドが指示する。

「振り返る」では、本時の振り返りを書き、発表するように促す。

(3) 実 際 (1／4)				(3) 実 際 (3／8)			
過程	指導上の留意点 (※評価)	主な学習活動	時間 (分)		主な学習活動	指導上の留意点 (※評価)	過程
振り返る	・ 前時に使用した給食の材料を提示し、どこから来ているのかクイズ形式で予想するように仕掛ける。	1 既習内容を振り返る。 ・ ○○県から来ているのではないかな。 ・ 給食で使われている物は、鹿児島県産が多いな。	5	7	1 学習課題を想起する。 縄文時代と弥生時代には、どんなちがいがあ るのだろうか。 2 一人で考える。 ・ 縄文時代は、狩りや漁をして食料を得ていたが、弥生時代には米や畑もしている。 ・ 弥生時代には見張りをしている人がいる。	・ 学習の進め方やワークシートを用いて、本時の学習の見通しをもつことができるように準備する。 ・ 前時の学習を想起し、本時の学習の見通しをもつことができるように、前時の学習をテレビに映す。 ・ 前時までに学習したことや想像図をもとにして、二つの時代の違いについて、ワークシートに書くようにガイドが指示する。	調べる
つかむ	・ お店のちらしと白地図を提示する。 ・ 提示された資料から、できるだけ児童の言葉で本時の学習課題を設定する。 ・ 学習課題に対する予想をするように促す。	2 学習課題を確認する。 わたしたちが食べている食べ物はどこから来ているのだろうか。 					

